

図書館に行こう！

中央図書館の外国語図書利用のすすめ

伊東稔雄(広報部会)

習志野市が令和4年12月に公表した外国人市民意識調査の報告によると、「図書館に外国語で書かれた本を増やしてほしい」という要望が多いということがわかりました。そこで、外国語で書かれた書籍の蔵書状況や利用状況を伺いに、習志野市立中央図書館を訪れました。

お忙しい中、館長の岡野重吾さんと多文化サービスコーナー担当の肥留間美穂さんにお話を伺うことができましたので、以下 Q&A 形式で伺ったお話を報告します。

*

Q1 外国語図書の所蔵状況と利用状況は？

A1 所蔵数は、令和5年1月末現在で2,495冊、借りられた冊数は令和3年度2,668冊、4年4月から5年1月までで2,407冊です。一般書と児童書の割合はほぼ同数ですが、借りていく方の多くは日本人ですね。

Q2 外国語の書籍コーナー（多文化サービスコーナー）をつくった目的やコンセプトは？

A2 令和元年11月に中央図書館としてオープンしました。その際、「誰でも利用できる図書館」をコンセプトに、日本語が得意ではない外国の方々にも本を読んでもらえる環境を提供したいと思い設置しました。在住外国人の方が母国語で書かれた本を目にすることは心安まることだと思います。外国語図書を収集しているのは市内でも中央図書館だけですが、4階閲覧室の新着図書や月々の特集展示コーナーの隣の目立つ場所に設置しています。

Q3 現在抱える課題は？

A3 まず資料が少ないことです。書籍の量自体も少ないですが、外国の文化を日本人に紹介できるような資料も少ないと思っています。



岡野館長(左)と担当の肥留間さん(右)

また、図書館を利用するためには「図書館カード」を作る必要がありますが、外国人の方にはハードルが高いです。カード発行の時だけでも誰か日本人か日本語がわかる人が付き添ってくれれば助かります。また、周知が足りないとも思っています。この図書館の存在をもっとPRしていく必要があります。口コミでも広めてもらいたいですね。そういう意味でも今回NIAのスクウェアに取り上げてもらえてうれしいです。

Q4 今後の展望は？

A4 中央図書館になってから英語以外の言語の図書も収集するようになり、昨年もベトナム語の図書を10冊以上購入しました。もっと周知活動を行い、利用者や貸し出し冊数を増やしていきたいです。また、書籍の貸し出しだけでなく、外国人も日本人も参加できるイベント（読み聞かせや紙芝居など）を企画していきたいと思っています。国際交流協会ともぜひ連携していけたらと考えています。

Q5 国際交流協会及び会員へ伝えたいことは？

A5 図書館の多文化サービスはまだ始まったばかりです。やりたいことはたくさんあり

ますが、図書館だけではできないことも多いのです。ぜひ国際交流協会の皆様のご協力をお願いします。

*

館長の岡野さん、担当の肥留間さんからは、具体的に「国際交流協会として、図書館に団体登録してもらえると 50 冊を一度に貸し出すことができるので、国際交流協会で外国語

図書を展示できないだろうか」とか「連携事業として図書館で読み聞かせを行えないか」等の提案をいただきました。

習志野市に住む外国人の文化的生活の向上に対する工夫、努力や夢を知ることができ、感激しました。今回スクウェアに掲載することが小さな一石となって波紋を広げ、利用者の拡大につながればいいと思います。



外国語書籍の書架



児童書(子ども向け)の表示



一般書(大人向け)の表示